

東京エコビルダーズアワード 2025

東京都 HTT

「燃費のいい家」知る機会に

主権者挨拶

東京都知事 小池 百合子 氏

「燃費のいい家」は、経済的かつ快適なだけでなく、停電時の安全、安心にもつながります。この「燃費のいい家」の普及に向けて、さまざまな

※12月11日受賞イベント当日のビデオメッセージより



リーディングカンパニー賞 部門再編で多角的評価

東京都の調査によると、都内の二酸化炭素(CO₂)排出量の約7割は、建物でのエネルギー使用に起因している。これを減らすには、都は25年度から「建築物環境報告書制度」を施行。大手ハウスメーカーなどを対象とし、2000平方メートル以上の建築物は、都はリーディングカンパニー賞受賞者16社を表彰した。

方々未だの新築建物への断熱・省エネ性能の再生可能エネルギー設備設置をそれぞれ評価する2部門だったが、多様な観点で光を当てたため、総合部門、分譲賃貸部門、地域ビルダー部門の3部門とされた。

また、基準を達成した事業者に向けた従来の「ハイスタンダード賞」に加え、基準を大幅に上回る誘導基準を達成した事業者に向けた「ハイスタンダードプラス賞」を新たに設けた。複数の賞を受賞した事業者を含め、計37社を選出した。

25年度のアワードには、地域工務店など同制度の対象にはならない事業者からも多くの応募があり、そのうち複数の事業者は同制度への参画を表明している。都環境局気候変動対策部の山口仁中小建築物担当課長は「着実に広がりを見せている」と、制度の確実な浸透に自信を見せる。

都は今後も「意欲ある事業者を支援する」とも、環境性能の高い住宅の利点を発信していく(山口課長)として、人々が日々過ごす建物の脱炭素化を推進する考えだ。

東京都は中小規模新築建築物の脱炭素化に意欲的な事業者を表彰する「東京エコビルダーズアワード」を2023年度から実施している。3回目となる25年度は部門を再編し、より多角的な切り口で事業者を表彰した。同年11月には都庁でリーディングカンパニー賞受賞者の表彰式を開き、同12月には受賞者の先進的な取り組みを広く周知するイベントを都内で実施した。都はこれらの取り組みを通じて、50年のカーボンニュートラル(温室効果ガス排出量実質ゼロ)実現に向け、環境性能の高い建築物の普及を後押ししていく。

建物の脱炭素化を推進

▲受賞者のプレゼンテーションに多くの来場者が耳を傾けた(ブースステージ)

リーディングカンパニー賞 受賞者

旭化成ホームズ (千代田区)

【総合部門】
太陽光・蓄電池の高普及と高断熱技術の推進
住宅事業マーケティング本部 戸建住宅事業推進部 小松建人 氏

3年連続の受賞を果たし「非常にうれしい。現場の励みになる」。ロングライフを謳う「ヘーベルハウス」を展開し、新技術による性能向上に日々取り組んできた。「これがユーザーの評価にもつながっている」。サッシ一つにもさまざまな工夫が施されている。樹脂だけでは耐久性に問題があるため、アルミ樹脂複合サッシを採用し、耐久性と断熱性の両立を図った。「快適と満足を感じてほしい」と、長く安心して生活できる環境を提供する。

一条工務店 (江東区)

【総合部門】
太陽光・蓄電池の低コスト化と防災住宅の展開
東京営業所 所長 田村悟志 氏

戸建のリーディングカンパニーとして、3年連続で受賞できたことは「取り組んできたことが認められ、非常にうれしい」。業界でも断熱性能等級の高い住宅を手がけることで知られ、最高の断熱等級7は「50%以上達成できている」。太陽光発電システムなどの普及にも力を入れ、「住宅の創エネ化」を推進する。「断熱だけではなく、それにプラスして太陽光発電システムと蓄電池の取り組みが評価された」と喜びもひとしおだ。

スウェーデンハウス (世田谷区)

【総合部門】
高断熱と日射制御による省エネ住宅の標準化
生産技術部 技術開発グループ 担当部長 織田茂 氏

1984年の創業時から木製三層ガラスを標準とし、高気密・高断熱・計画換気を基本性能とした住宅を提供してきた。「3年連続で受賞でき、非常にうれしい」。性能については実験を続け効果をしっかりと確認し提案することを重視しており、「これが説得力につながる」と自信を見せる。ハードだけではなく、「アフターも含めソフト面の取り組みも大事だ」とし、今後も住む人の目線に立った住まいを創り上げていく。

真柄工務店 (西京市)

【総合部門】
高断熱住宅の全棟実現と性能情報の積極発信
代表取締役 真柄大介 氏

自然素材と高気密・高断熱の性能を生かした「本物の家づくり」を手がける。今回が初の受賞だが、「性能や品質には自信があった」。外皮平均熱貫流率(UA値)や住み心地の良さにつながる隙間相当面積(C値)で高水準の住宅を提供するが、「数字だけを追いかけたいわけではない」。デザインや設計も含めた総合力を重視する。「住宅は単なるハコではない。お客さま喜んでくれる住まいにすることが大事」と力を込める。

三井不動産レジデンシャル (中央区)

【総合部門】
建設から居住まで一貫した脱炭素施策の推進
地域開発事業部 部長 若松雅人 氏

「Life-styling×経年変化」をコンセプトに掲げ、分譲住宅ではネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)化を推進し、省エネ設備の設置などにも力を入れる。受賞は3年連続で「安全・安心な街や持続可能な社会づくり、SDGsなどに貢献していきたい。住戸のCO₂排出量や削減量を見える化しポイントや付与する「くらしのサス活アプリ」サービスも提供。「お客さまと一緒にCO₂削減に取り組んでいきたい」と意気込む。

ヤマト住建 (神戸市中央区)

【総合部門】
高性能住宅とEV・空気環境配慮の総合提案
執行役員 入口泰尚 氏

以前よりZEH基準以上の断熱・気密性能が高い住宅を手がけてきた。受賞は3回目。「何か特別のことをしたわけではない。普段からのカーボンニュートラルにつながる取り組みが評価されてうれしい」。断熱等級6、7レベルの住宅を普及させ、「断熱では業界の一步先を目指し取り組んでいる」。太陽光発電についても「設置するのは当たり前の時代に突入。貯めて使うことが重要だ。トータルで省エネを提案していく」と力を込める。

小田急不動産 (渋谷区)

【分譲・賃貸部門】
分譲・賃貸におけるZEH普及と性能の見える化
住宅事業本部 開発企画部 戸建企画グループグループリーダー 本橋理 氏

「環境共生住宅」を提供し、24年度には新築分譲戸建やマンションでZEH割合100%を達成した。「まずは社員がその環境価値を理解していなければならぬ」と社員教育にも力を入れ、「お客さまのメリットをしっかりと伝えている」。CLRプロジェクトでは「住宅から生み出されたクリーンエネルギーを、J-クレジット制度を利用して特急ロマンスカーなどを走らせるのに活用」しており、地域との共生にもつながる取り組みも展開する。

参創ハウテック (文京区)

【分譲・賃貸部門】
賃貸住宅での再生エネ有効活用と地域連携
専務取締役 尾崎誠一 氏

「断熱性能・省エネ性能に特化した住宅建築に取り組んできた」。10年以上前に外断熱工法からダブル断熱工法に切り替えて、気密を担保した住宅を手がけてきた。戸建の場合は太陽光発電のエネルギーを世帯内消費に活用しやすいが、集合住宅は各世帯に割り振るのが難しい。「太陽光発電の電気を上手に活用できる低圧一括受電を採用した集合住宅が評価され、大変光栄だ」とし、今後も断熱・省エネ性能の向上と省エネ設備の活用力を注ぐ。

セイズ (葛飾区)

【分譲・賃貸部門】
都市部住宅での太陽光標準化と行政連携
代表取締役 及川達也 氏

分譲住宅で全棟ZEH基準をクリアし、高性能な断熱材や気密構造によって25年度の省エネ新基準を上回る性能を実現した。3年連続の受賞で「若いスタッフもよく頑張ってくれた」。20坪の狭小地などでも環境性能の高い住宅を建て、分譲住宅のすべてに太陽光発電を標準整備するなど光熱費の削減効果も高い。「2分の1になるといっても最初は信じてもえられないが、実際に皆喜んでくれる」と、今後も地域密着の家づくりを続ける。

パナソニックホームズ (大阪府豊中市)

【分譲・賃貸部門】
組織的なZEH推進体制による省エネ住宅展開
営業戦略部 特選推進課 北條賢宏 氏

戸建・集合住宅でZEH基準を超える高断熱・高省エネ仕様を推進し、「東京ゼロエミ住宅」基準を満たす住まいを積極的に展開する。「需要の多い東京都内に対応する建物を増やせた。2年連続の受賞であり、継続的な取り組みが評価された」と喜ぶ。都の助成金などについても「営業担当者がしっかりと勉強し、お客さまに提案できた」という。ユーザーの環境に対する意識も高まり、「今後もゼロエミ住宅を訴求していく」と意気込む。

ミサワホーム (新宿区)

【分譲・賃貸部門】
高断熱・高効率設備によるGX志向住宅の展開
商品・技術開発本部 技術部 技術管理課 課長 城所創 氏

断熱・省エネ性能を高めるさまざまな独自技術を持ち、2年連続の受賞となった。「木質パネル接着工法」は合板で断熱材を挟んだもので「施工が楽なことポイントだ」。建物に合わせて24時間換気を行う「フロアセントラル換気システム」は空気清浄機でも使用されている高性能なHEPAフィルターを搭載する。ミサワホームは50年以上前から南極の昭和基地の建物建設に関わり、「培ってきた断熱の技術やノウハウがある」と胸を張る。

アイケーホーム (世田谷区)

【地域ビルダー部門】
都市型敷地での省エネ設計と地域啓発
代表取締役 飯島朝和 氏

東京ゼロエミ住宅、またはZEH基準以上をクリアし、断熱等級6、UA値0.46以下を標準とするなど高い基準を満たす。都市部の狭小地や密集地でも快適な住環境と高いエネルギー効率を両立できる設計にこだわり、「太陽光発電システムもいかに載せるかを工夫している」。設計力、施工力を誇り、「性能を優先したからといって、何かを諦める必要はない。手間も時間もかかるが自由設計が強みだ」と、今後も顧客の要望に応えていく。

創建舎 (大田区)

【地域ビルダー部門】
国産材活用と社員大工育成による住宅供給
代表取締役 吉田薫 氏

東京ゼロエミ水準Aを期間中の物件全棟で取得し、9割で太陽光・蓄電池を導入するなど安心して住み継がれる持続可能な木造住宅を提供する。「強みである設計と社員大工の連携の取り組みが評価された」。大工の高い技術があってこそ設計も生きる。都内の厳しい建築制限下で環境性能を高めた住宅を作るのは難しく、高い設計力とそれを形にする大工の力が必要だ。「職人は格好良いとっと広まってほしい」と、受賞の効果を期待する。

大黒屋 (東村山市)

【地域ビルダー部門】
在来工法継承と高性能リノベーション推進
代表取締役 袖野伸宏 氏

一生のパートナーとして家を建てるお客さまとの関係性を大切に。若手大工の育成と在来工法の継承、高性能リノベーションによる空き家活用が評価され、これまでの取り組みが正しかったと確信が持った。耐震などの建物の長寿命化では耐震等級3+制震テープを標準とし、災害時には家自体が避難場所として機能するように太陽光と蓄電池の提案にも力を入れる。地域貢献なども含め、喜ばれる家づくりに取り組んでいく。

中島工務店 (青海市)

【地域ビルダー部門】
地域特性に応じた高断熱住宅の普及
代表取締役 中島慶貴 氏

西多摩エリアの地域特性に合わせた家づくりに強みを持つ。中島代表取締役は同エリア内の青海市が出身地。「23区内と比べ夏の暑さも冬の寒さも厳しい」という地域の特徴を熟知している。新築時に断熱性の高い建物を提案しているほか、リフォーム時の省エネ化にも対応する。24年度から2回目の挑戦でリーディングカンパニー賞を受賞した。「青海市に恩返しできたように思う」と笑顔を見せ、今後も地元で高性能住宅を広げていく。

八幡 (青海市)

【地域ビルダー部門】
太陽光・蓄電池高搭載と情報発信の継続
注文住宅営業部 部長 平野透 氏

業界トップクラスの高断熱パネルや高断熱サッシを採用し、断熱等級6を標準化している。熱交換換気システムなども採用し、「住み心地の良さを感じてほしい」と自信を見せる。受賞は3年連続。理念である「これから家を建てる全ての方に真に快適な家を知ってもらう」ため、SNSなどでも積極的に情報発信する。「地域の工務店として丁寧につくることは大事。建てた家ごとに性能のバラつきがあっても大丈夫。ちゃんとした家を届けたい」と意気込む。